

医師事務作業補助者の活用による医師の業務改善例



医療法人財団 荻窪病院

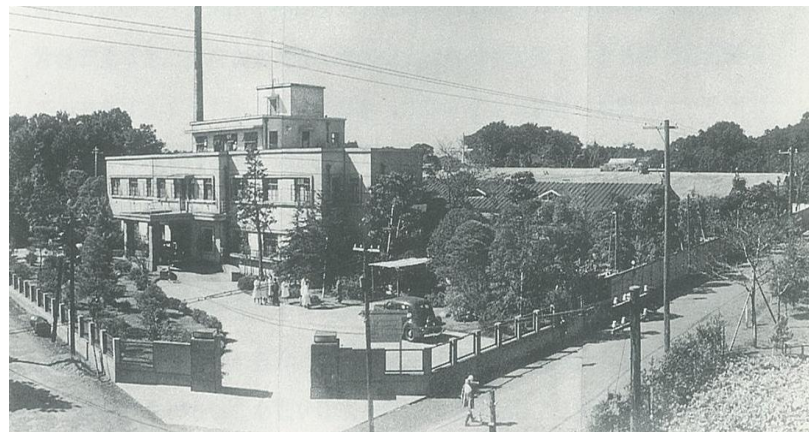
村井信二

2019¹.3.18

荻窪病院の歴史



昭和8年



昭和25年



昭和44年



平成6年



病院概要

名称	医療法人財団 荻窪病院
所在地	東京都杉並区今川3丁目1番24号
理事長	村井 信二
病院長	村井 信二
設立	病院開設：1936年 医療法人認可：1950年12月（東京都最初の医療法人認可）
診療科目	内科/消化器内科/循環器内科/神経内科/血液内科/肝臓内科 糖尿病内科/リウマチ科/腎臓内科/呼吸器内科 外科/消化器外科/整形外科/心臓血管外科/脳神経外科/眼科 泌尿器科/皮膚科/産婦人科/小児科/麻酔科/放射線科/救急科 リハビリテーション科
許可病床数	一般252床(ICU 8床)
職員数 (2018年4月)	787名（常勤630名・非常勤157名）常勤換算数660.0名 【常勤】医師74名（内研修医8名）看護師291名 薬剤師24名 放射線技師15名 臨床検査技師22名 セラピスト26名 管理栄養士5名 臨床工学技士9名 看護補助者31名 事務その他133名



医療法人財団 荻窪病院 沿革

- 1936年（昭和11年） この地に、中島飛行機附属病院として開設
- 1950年（昭和25年） 医療法人財団を設立、医療法人財団荻窪病院に改称
- 1987年（昭和62年） **東京都災害拠点病院指定**
- 2004年（平成16年） **臨床研修指定病院（管理型）**
- 2008年（平成20年） 心臓血管センター開設
電子カルテシステム導入
- 2009年（平成21年） **東京都CCUネットワーク加盟**
- 2011年（平成23年） **急性大動脈スーパーネットワーク重点病院指定**
- 2013年（平成25年） 新病棟（別館）竣工
救急科開設
病床数252床（ICU8床）に増床
- 2017年（平成29年） **東京都地域医療支援病院指定**

施設認定等

- 保険医療機関（健康保険法）
- 救急病院
- 東京都指定二次救急医療機関
- 労災保険指定病院
- 生活保護法に基づく指定医療機関
- 東京都エイズ診療拠点病院
- 児童福祉法に基づく指定育成医療機関
- 母子保健法に基づく療育医療機関
- 東京都災害拠点病院
- 障害者自立支援法に基づく更正医療を担当する病院
- 被爆者援護法に基づく被爆者一般疾病医療機関
- 臨床研修指定病院（医師法第16条の2第1項）
- 東京都CCUネットワーク加盟施設
- 急性大動脈スーパーネットワーク緊急大動脈重点病院
- 東京都地域医療支援病院

本日の内容

1. 医師事務作業補助者の初期採用から今日まで
2. 医師事務作業補助者へのタスクシフティング
3. タスクシフティングによる成果
 - i) 医師の負担が軽減したか
 - ii) その結果病院にはどのような業績変化があったか
4. 医師事務作業補助者へのタスクシフティング/
シェアリングを進めるための今後の課題

1. 医師事務作業補助者の初期採用から今日まで

メディカルアシスタント室

部署沿革

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
加算申請	50対1		15対1				(1)15対1			
所属部署	看護部(病棟) 事務部(医事課) 事務部(総務課)	事務部 (医事課/サポート係)	看護部 (病棟/外来)	看護部 (外来)		副医療部 (メディカルアシスタント室)	新しい部署		複数科担当制構築	
人数	5	10	18	24	27	26	38	40	39	41
役職者			1	1	2	2	3	4	3	4
配置	既存のクラーク	各病棟 各外来 既存のクラーク	診療科毎	診療科毎	診療科毎	診療科毎	診療科毎	診療科毎	診療科毎	複数診療科によるチーム制
業務	電子カルテ導入 (SSI) 217床	診断書類	診断書と <外科・ 整形外科・ 心臓血管外科・ 循環器内科> 先行	代表MA3名による 業務構築開始			別館竣工 252床 ・救急科	地域連携室 人事交流開始		・訪問 診療科
活動			クラーク会議 サポート会 MA業務検討会議		新卒採用に 注力	医師事務作業 補助研究 会法人会員	担当者			勉強 マニュアル カリキュラム 接遇マナー

なぜ15:1を超える医師事務作業補助者を育成し運営しているのか？

医師の多忙さが、本来の医師のパフォーマンスを十分に出し切れない環境

医師の勤務環境を改善するためには、新しい職種である、医師事務作業補助者へのタスクシフティングが、必要と考えた

2. 医師事務作業補助者へのタスクシフティング

外科医の外来患者に対する業務

検査前

内視鏡検査申込書記載
CT検査申込書記載
検査同意書作成
患者説明
電子カルテへの記載

検査実施

内視鏡検査実施
内視鏡検査所見用紙記載
電子カルテ記載
病理依頼紙記載

検査後

入院説明
手術申込書記載
術前検査依頼
施行した検査結果説明
麻酔患者申込書記載
輸血説明
輸血申込書作成
手術同意書作成
手術説明
電子カルテへの記載

外科医の入院患者に対する業務

手術前

入院診療計画書記載
クリティカルパス記載
手術同意書記載
家族を含めての手術説明
電子カルテへの記載
院内紹介状の記載

病室

ICU退室基準用紙記載
回診
日々の採血結果説明
検査指示だし
検査用紙記載
病理結果説明
抗癌剤の説明
電子カルテへの記載

手術

手術実施
結果説明
病理標本整理
病理伝票記載
術後管理
ICU入室申込
手術記録記載

退院

退院後の説明
退院時指導用紙の記載
退院時サマリー記載
退院証明書記載
紹介元への情報提供書記載
診断書記載
保険会社診断書記載

仕事は臨床業務だけではありません

院内での仕事

医師として(外来・検査・手術・病棟管理)
臨床研修医管理・指導
部門管理(外科チーム)
感染対策・医療安全・NST活動
内視鏡カンファレンス
手術前カンファレンス
化学療法カンファレンス
他職種チームカンファレンス
メディカルスタッフ教育
会議(診療部長会議・手術室委員会・
病院運営会議etc)
事業計画立案

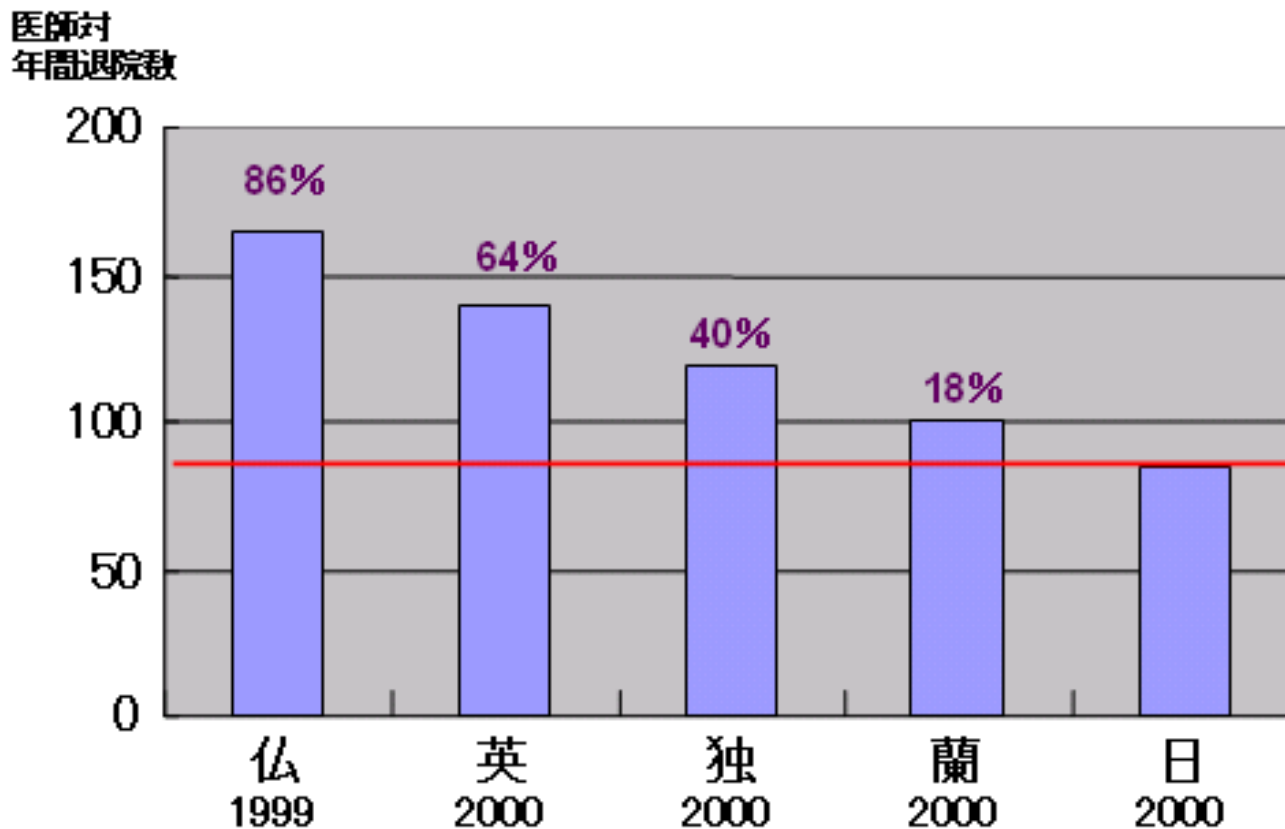
院外での仕事

研修
学会発表
論文記載
消化器研究会世話人
内視鏡関連研究会世話人
医師会関連業務
大学医局関連業務
大学講義
私的活動

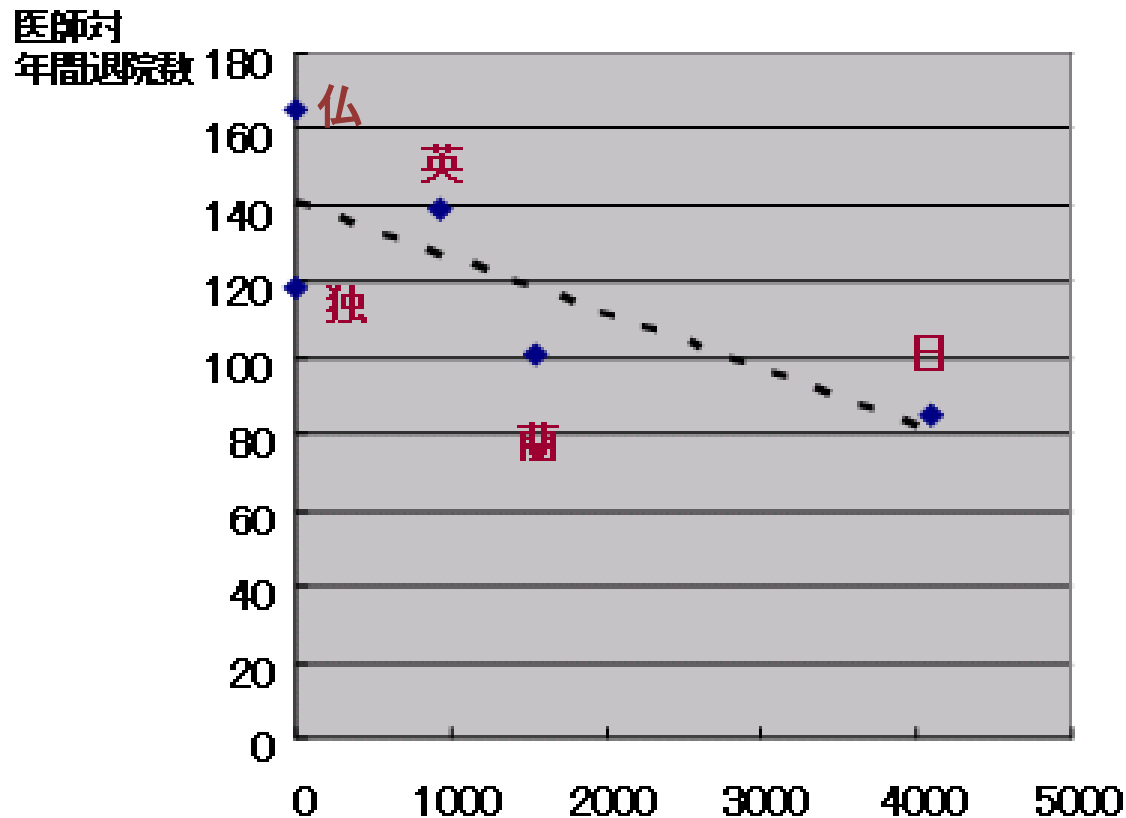
日本の医師は労働生産性が低い？

医師の労働生産性の国際比較

医師1人当たりの退院患者数(OECD統計)



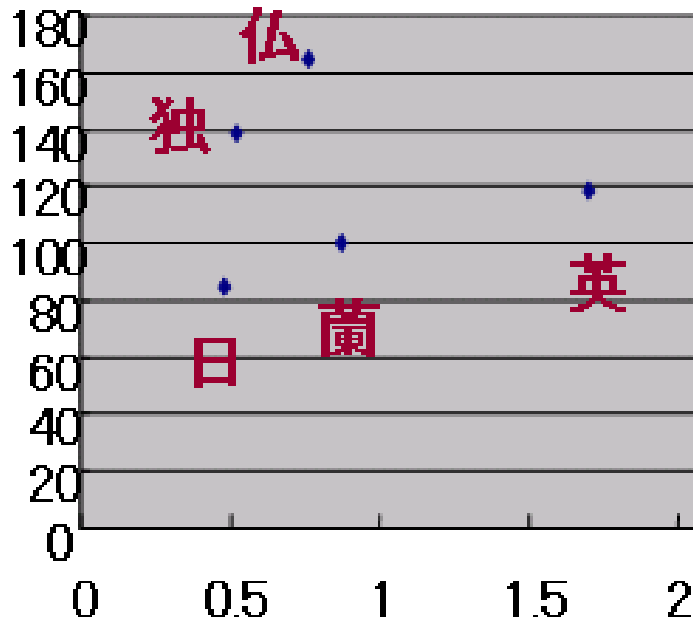
医師の生産性と外来負担



2010年診療報酬改定と急性期病院の対応 国際医療福祉大学大学院 武藤正樹先生 資料より

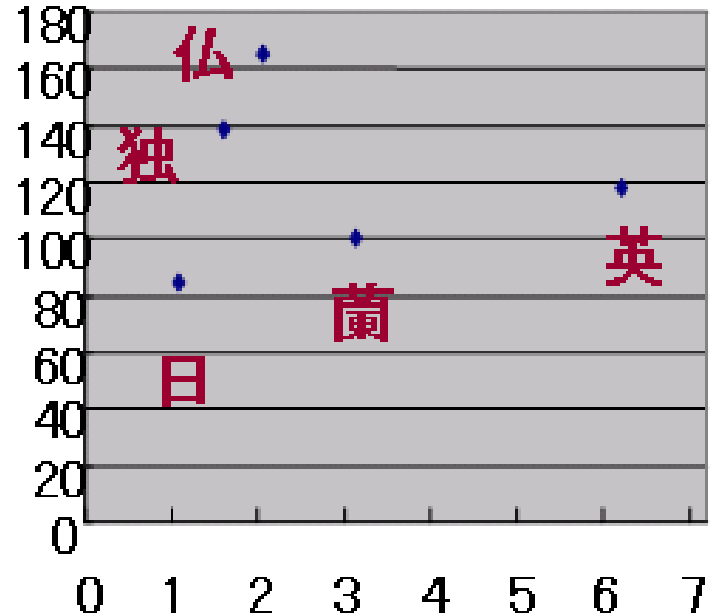
職員数と医師生産性

医師対
年間退院数



急性期病床あたりの看護師数

医師対
年間退院数



病床あたりの総職員数

2010年診療報酬改定と急性期病院の対応

国際医療福祉大学大学院 武藤正樹先生 資料より

医師当退院患者数が低い原因

1. 日本の医師の**外来の負担が大きい**
2. 医師の労働が未分化で、**他職種実行可能な仕事を自ら実施している**
3. **他職種**（看護師その他）の病床当り**数が少ない**

医師の業務はとにかく多い

医師事務作業補助者に委託できる業務を
タスクシフティングするために、
医師事務作業補助者を育成

何からはじめたらいいか

臨床現場での教育



共通言語で話せるように



一日中医師とともに過ごす

外来



回診同行



育成① 手術



育成② 心カテーテル



育成③ 内視鏡



カンファレンス参加



外来書類



教育



メディカルアシスタント室

【2018年度病院目標】

- ① 脳卒中医療体制の整備と本格稼働に向けた準備
- ② 医療機能拡大プロジェクトへの全職員の参画
- ③ チーム医療の強化
- ④ 業務効率化推進プロジェクトへの全職員の参画
- ⑤ 紹介・救急要請ニーズに対応するため、地域医療機関と各科医師との連絡体制の簡素化
- ⑥ 災害時訓練の継続



【2018年度〇〇科目標】

【2018年度自己目標】

氏名： _____ 在籍年数： _____ 年 病院経験年数： _____ 年

目標	
行動計画	

中間評価		期末評価	
自己評価	所属長評価	自己評価	所属長評価

--	--	--	--

総括

BSC

教育計画/カリキュラム編

医療機関 2018年度BSC(バランススコアカード) 上 期

	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">2018年度病院目標</div> <div style="text-align: center;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">2018年度HAチーム目標</div> </div>	
--	---	--

業務目標達成率(%)		業務内容	重要成功要因	成果の評価指標	現状	ターゲット目標数値(状態)	具体的な行動計画	前半(4月～6月)	後半(7月～9月)
業務目標	1. 運営管理	1. 紹介に対する運営作成 2. 連絡 3. コスト意識	1. 紹介に対する運営作成 2. 連絡 3. コスト意識	地域医療貢献 事業収益増 コスト意識					
業務目標	2. 残業時間減少	1. 残業時間減少	1. 残業時間減少	残業削減、職場環境改善、残業防止					
業務目標	3. 診断書短縮	1. 患者満足度の向上 2. 精度の向上 3. 作成期間の短縮	1. 患者満足度の向上 2. 精度の向上 3. 作成期間の短縮	作成枚数 問合せ件数 問合せ、不備、催促 問い合わせ件数 問い合わせ件数					
業務目標	4. 患者満足度向上	1. 患者満足度向上 2. 職員間で気持ちの良い環境づくり	1. 患者満足度向上 2. 職員間で気持ちの良い環境づくり	1. 患者さんの声よく聴き 2. 患者さんへの声よく聴き 3. 職員間で気持ちの良い環境づくり					
業務目標	5. チームの連携強化	1. 合理化と効率化 2. 改善と改革 3. 業務シェア	1. 合理化と効率化 2. 改善と改革 3. 業務シェア	1. 業務効率化 2. 業務改善 3. 業務共有					
業務目標	6. 人材育成	1. キーパーソンの確保 2. 院内研修への参加	1. キーパーソンの確保 2. 院内研修への参加	1. 研修進捗に合わせた取り組み 2. 院内研修への参加					

メディカルアシスタント室

教育計画/カリキュラム編

平成29年度

MA業務実施チェックリスト【診療支援】

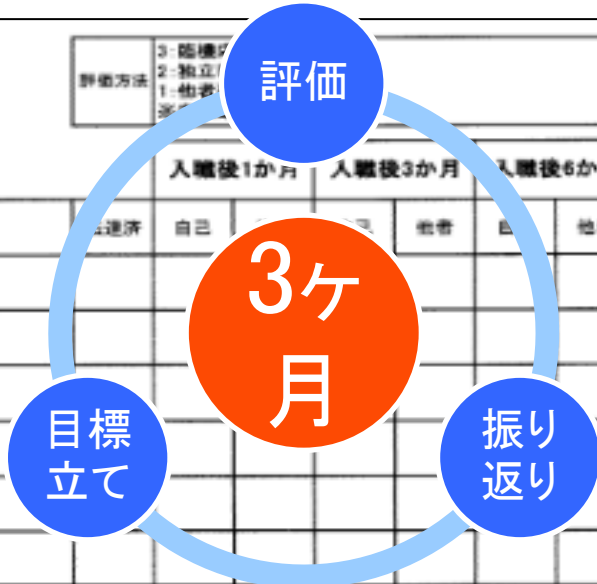
評価方法
3: 指導済
2: 独立/他者確認
1: 伝達済

循環器内科

氏名: _____

入職後1か月 入職後3か月 入職後6か月 入職後9か月 入職後12か月

内容	伝達済		自己		他者		自己		他者	
1 診療録入力(初期)										
2 受付票(予約票)の仕分け										
3 予約外患者・新患、診察前検査(採血など)有無の確認										
4 検査結果確認(カルテ入力、印刷含む)										
5 診察患者呼び入れ										
6 問診票・紹介状からの情報入力										
7 診療録入力(診察内容・IC含む)										
8 他科依頼										
9 各検査オーダー入力										
10 各処置コスト入力(指導管理料含む)										
11 当日入院(例: べつ確認・入約・パス立ち上げ・異常時オーダー入力、同意書作成・入院時チェックリスト記入・患者ファイル取寄せ・入院手続き案内・入院診療計画書作成・Nsへ申し送り)										
12 予約入院(例: 入約・検査オーダー入力・異常時オーダー入力、手術申込入力・同意書類作成・入院時チェックリスト記入・パス立ち上げ・パス用紙準備or入院診療計画書作成・入院説明用紙記入)										
13 次回検査の予約										



5: 独立しスムーズにできる
 4: 独立してできる
 3: 他者確認を要する
 2: 見守りを要する
 1: 伝達済

共通

メディカルアシスタント室

教育計画/カリキュラム編

メディカルアシスタント室 氏名 萩原 花子
 自己評価習熟度カルテ 担当科 内科
 所属長 担当 役職者
 入職日 平成29年 4月1日
 2017年度 8月 3ヶ月目評価

●全体達成率●(%)

	前回	今回
診療準備	50	56
診療支援	26	39
文書作成	5	13
その他	8	28

●部門/分野別達成率●(%)

<診療準備>

	前回	今回
共通	50	56
科別	0	0

<診療支援>

	前回	今回
共通	28	41
科別	0	0

<文書作成・その他>

	前回	今回
文書作成	5	13
共通	13	29
科別	0	25

●今後3ヶ月の目標●

①前回のカルテに【結果値】を記入しよう
 ②今後の目標、取り組みを記入しよう

部門	番号	目標値
診療準備	12	1
診療支援	1	2
診療支援	6	2
診療支援	9	2
文書作成	12	2
文書作成	13	2

<具体的な取り組み>
 診療準備・診療支援の業務のポイントは埋めてきたため、状況に応じてオーダー入力や初期入力を行えるよう経験を積んでいく。また文書作成においては、紹介状をよく閲覧し紹介理由を確認してから作成していくようにする。
 記入日 8/18

<指導担当者の取り組み>
 文書作成が目標値に到達できるように指導していきます。
 記入日 8/24 印

※次回記入

結果値
1
1
2
2
1
1

2017.4更新 カリキュラム係

現在の医師事務作業補助者の業務

1. 外来支援

2. 文書作成

3. 記録

1. 外来支援

電子カルテ入力

診療のカルテ記載
検査結果説明の記載
手術説明の記載
etc・・・

血液生化学検査、生理検査、画像検査オーダー

次回外来予約の確認と調整

検査内容説明

入院説明

患者さんからの問い合わせ電話への対応

etc・・・

外科医の外来患者に対する業務

検査前

内視鏡検査申込書記載
CT検査申込書記載
検査同意書作成
患者説明
電子カルテへの記載

検査実施

内視鏡検査実施
内視鏡検査所見用紙記載
電子カルテ記載
病理依頼紙記載

検査後

入院説明
手術申込書記載
術前検査依頼
施行した検査結果説明
麻酔患者申込書記載
輸血説明
輸血申込書作成
手術同意書作成
手術説明
電子カルテへの記載

2.文書作成

紹介状の返事

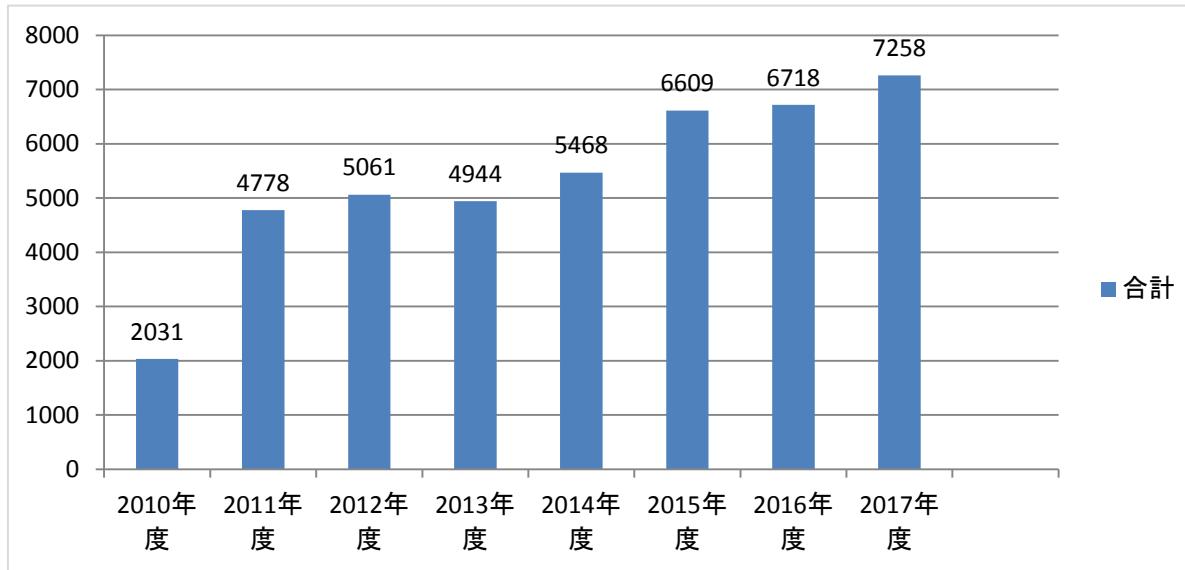
診療情報提供書

退院サマリー

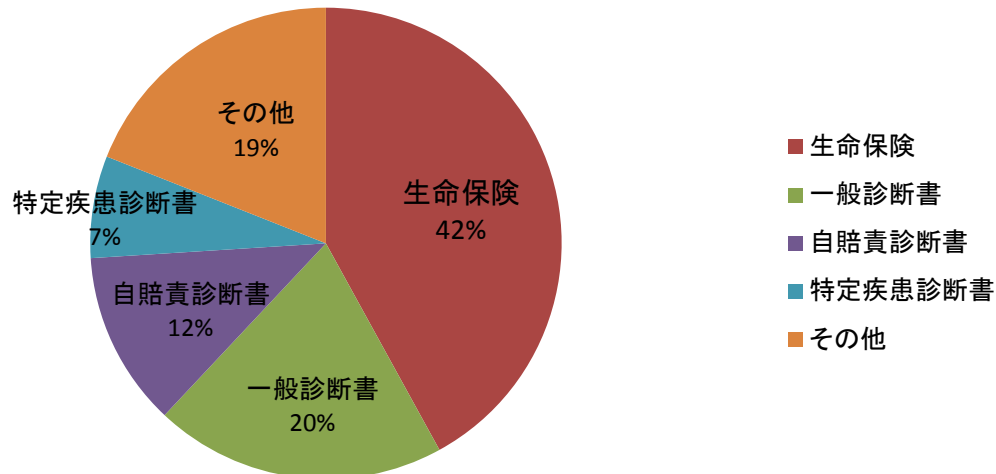
診断書類

etc・・・

医師事務作業補助者書類業務年合計



作成書類内訳



紹介状の返事、診療情報提供書、退院サマリーなどは、別です！！

3.記録

回診時の記録

カンファレンスの記録

外科医の入院患者に対する業務

手術前

入院診療計画書記載
クリティカルパス記載
手術同意書記載
家族を含めての手術説明
電子カルテへの記載
院内紹介状の記載

病室

ICU退室基準用紙記載
回診
回診時の記録
採血結果説明
検査指示だし
検査用紙記載
病理結果説明
抗癌剤の説明
電子カルテへの記載

手術

手術実施
結果説明
病理標本整理
病理伝票記載
術後管理
ICU入室申込
手術記録記載

退院

退院後の説明
退院時指導用紙の記載
退院時サマリー記載
退院証明書記載
紹介元への情報提供書記載
診断書記載
保険会社診断書記載

3.タスクシフティングの成果

- i) 医師の負担は軽減したか

医師事務作業補助者導入後の医師のアンケート

- 患者さんの目を見ながら説明できるようになった。
- 少ない時間でもより質の高い医療を提供ができるようになった。
- 患者さんの待ち時間の短縮にもつながる。
- 他の職種との連携がスムーズになった。

医師事務作業補助者導入後

医師にとってみれば、カルテや診断書などを一から書く時間や手間が少なくなったことは、トータルで見れば**働く時間の削減**になっています。

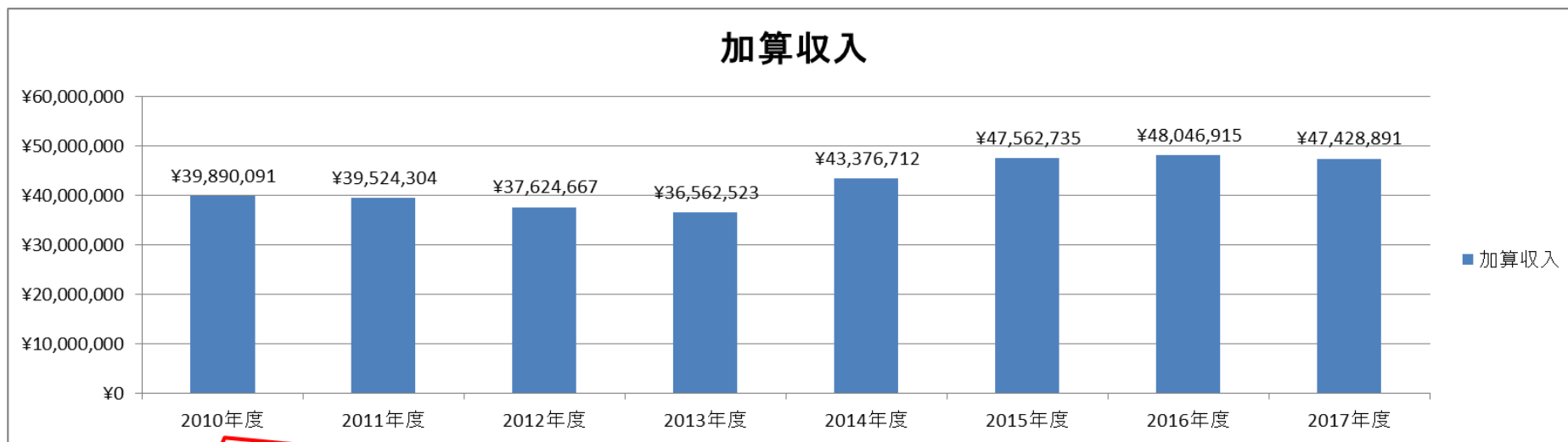
また、外来で従来は同じ時間で5人しか診られなかったところを8人に対応できるようになれば、**経営的なメリット**にもなります。さらに、これまで2週間かかっていた診断書が2日で提供できるようになれば、**患者さんへのサービス向上**につながります。

医師業務のタスクシフティングにおおいに貢献した

3.タスクシフティングの成果

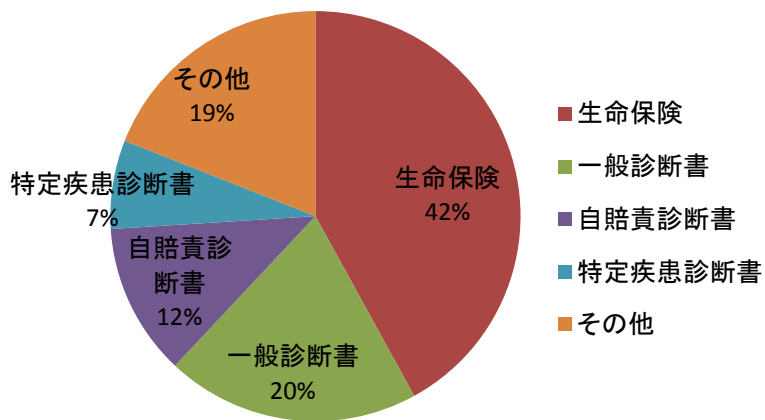
ii) 病院にはどのような業績変化があったか

医師事務作業補助者加算収入

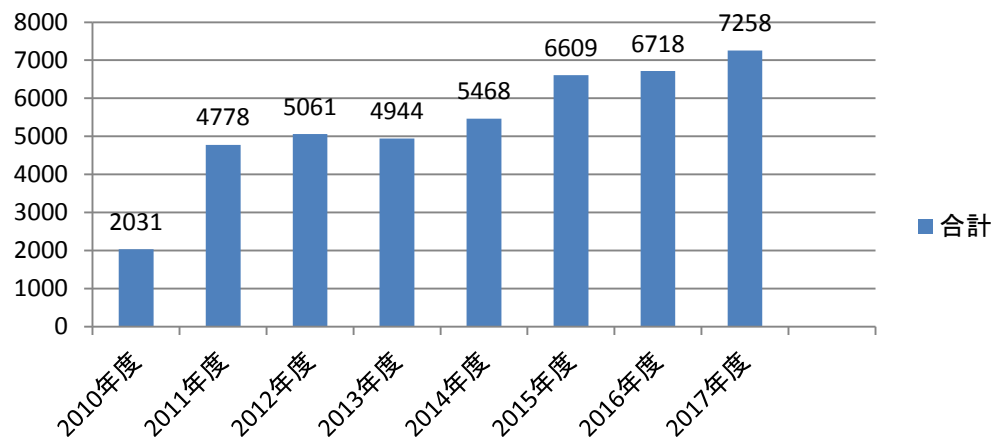


加算収入 = DPC入院料 × 医師事務係数
39,890,091 = 1,494,010,890円 × 0.0267
(2010年度)

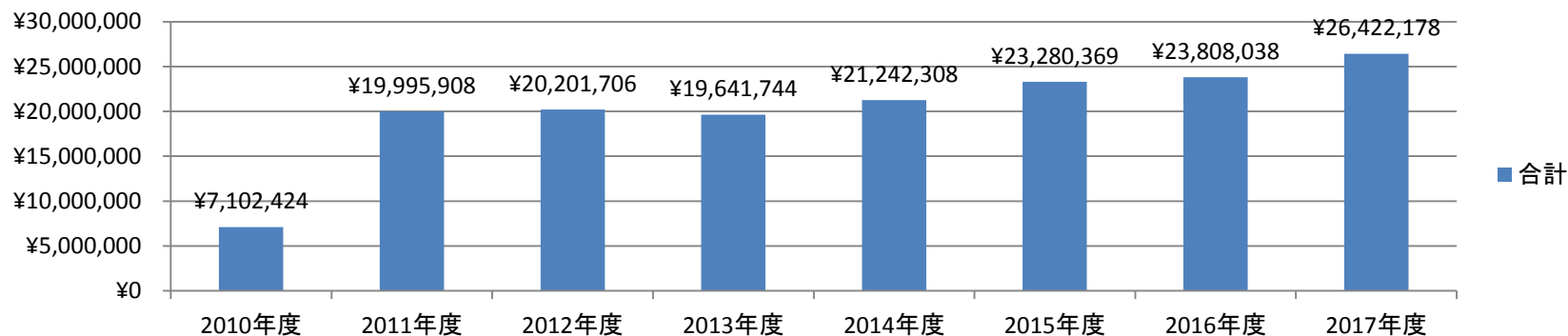
作成書類内訳



医師事務作業補助者書類業務年合計



医師事務書類作成収入



書類は、医事課の作成分やMA室作成分があるので一概に完璧な資料は作成できず年間1件当たりの書類の単価を件数にかけてあります。

医師事務作業補助者加算収入だけでは病院への貢献度は見えません！

病院事務管理者のための病院経営情報誌

医療アドミニストレーター

6

+ Medical Administrator

2015

Journal of Hospital Administration

DPCデータを活用した医療の可視化と質向上

事例1 DPCオフィサー(データの可視化・検証会議)と分散するデータの経営へのフィードバック

ひたちなか総合病院

事例2 DPCデータと臨床データをリンクし、医療の質を可視化

湘南鎌倉総合病院

病院経営における診療情報管理士の重要性

～「診療の質」のみならず「経営の質」向上にも貢献～

松阪市民病院

施設基準を再チェック

指導・適時調査を乗り切る

解説 最近の指導・監査の傾向

～年間146億円もの返還額 対応は「常時、自主点検」～

事例 個別指導・適時調査で求められる事務方の役割とその実際

産労総合研究所
附属 医療経営情報研究所

病院羅針盤 経営者に聞く⑤1

252床で400床の 貢献をするために 1床の充実と、 在宅ベッドの活用



医療法人財団 荻窪病院(東京都) 病院長 村井信二 先生

医療法人財団荻窪病院がある杉並区は、都内23区にありながら、200床以上の病院が極めて少ない地域だ。そのため、村井信二院長が院長職に就任した2009年当時、二次救急で入院を必要とする患者の7割が区外に搬送されている状況だったという。杉並区に住む人々のニーズに応えるために、同院では、「いかに1床を大事に使うか」を追求してきた。その結果、現在では、252床という規模ながら年間4,000件弱の救急車を受け入れ、年間3,700件もの手術を行っている。

23区内の大病院不在地域

医療法人財団荻窪病院の前身は、戦前、東洋最大の航空機メーカーと言われていた「中島飛行機」の東京工場の医務室だ。その後、終戦とともに中島飛行機は解体され、病院はというと、「医療法人」が創設された1950年に、都内初の医療法人として現在の名称になった。以来、地域の急性期医療の中核病院として、二次救急を超えた“2.5次”救急を担っている。

荻窪病院のある杉並区の人口は、現在、約53万人。それだけの人口を抱えながら、都立病院もなければ大学病院もなく、日赤

病院、済生会病院もないという、23区内では珍しい“大病院不在”地域だ。そんな地域の状況を、村井信二院長は次のように説明する。

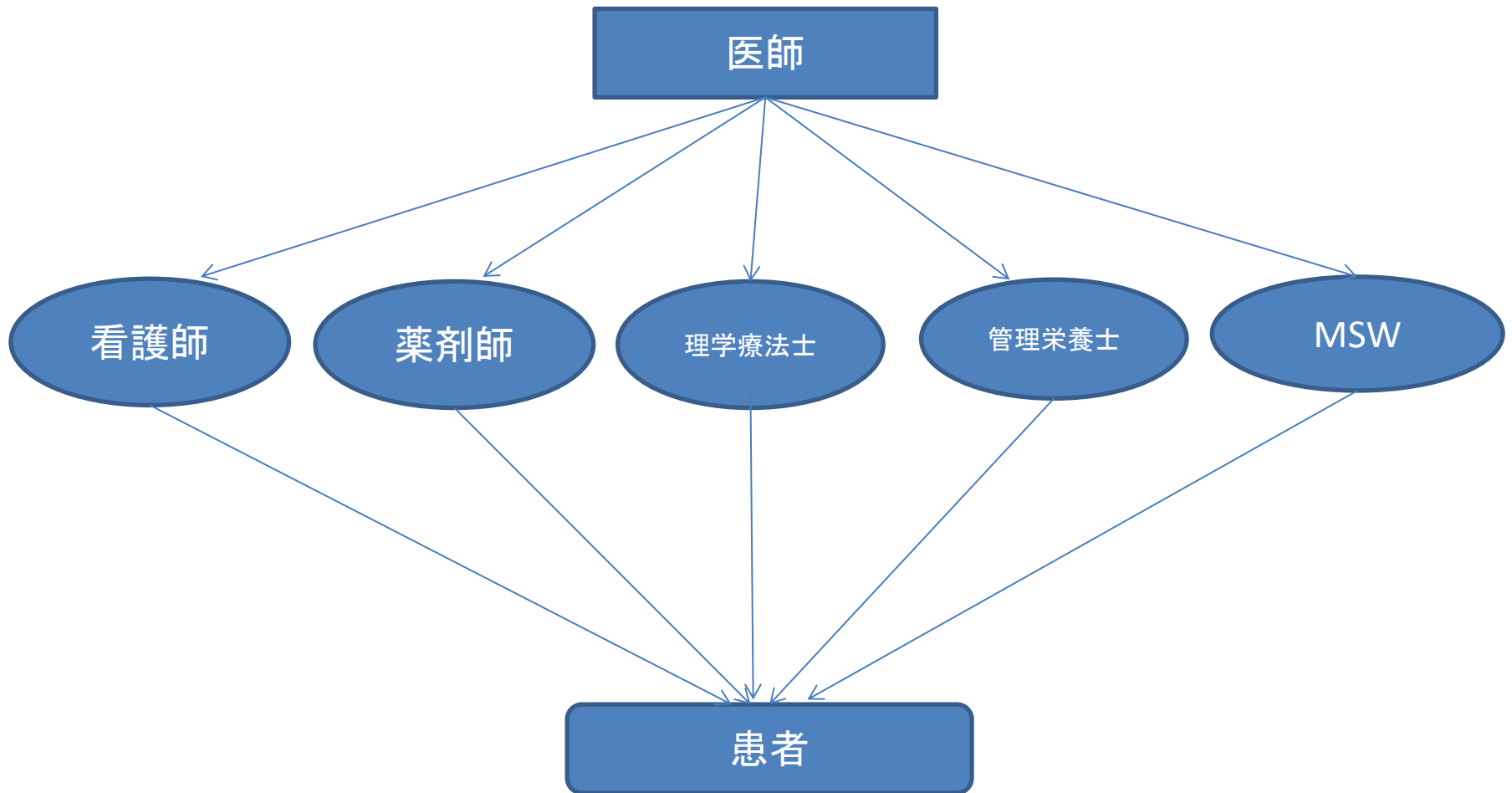
「杉並区内で、200床を超える急性期病院は、331床の河北総合病院と、昨年中野区から移転された立正佼成会附属俊成病院(340床)、そして荻窪病院(252床)のみです。ですから、252床と建物としては小規模ですが、アグレッシブに医療を提供し、300床以上の貢献はしていると自負しています」

歴史ある医療と 5つのセンターによる先端医療

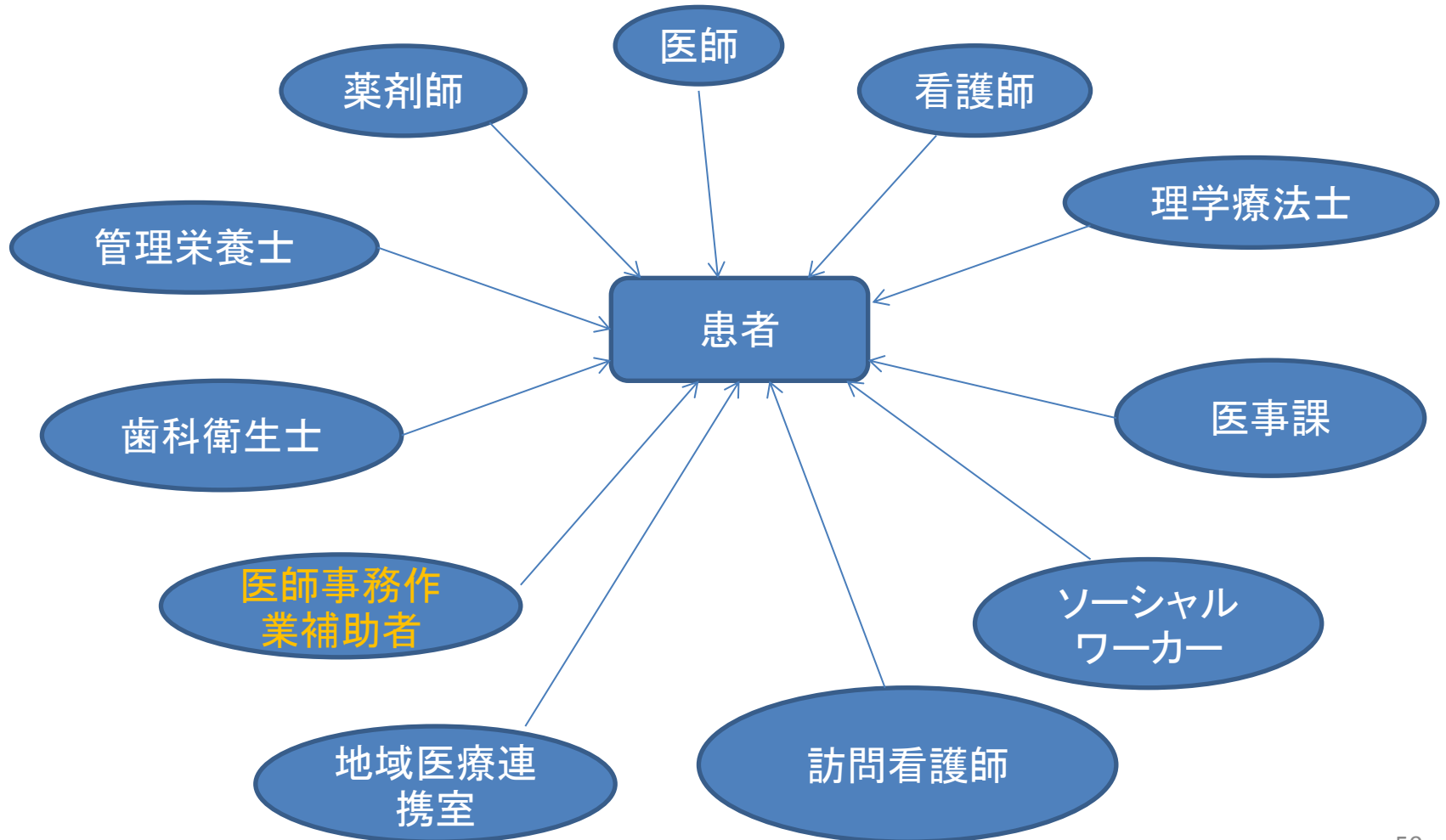
長い歴史を持つだけに、病院の職員のみならず、

医療アドミニストレーター

従来の医療体制



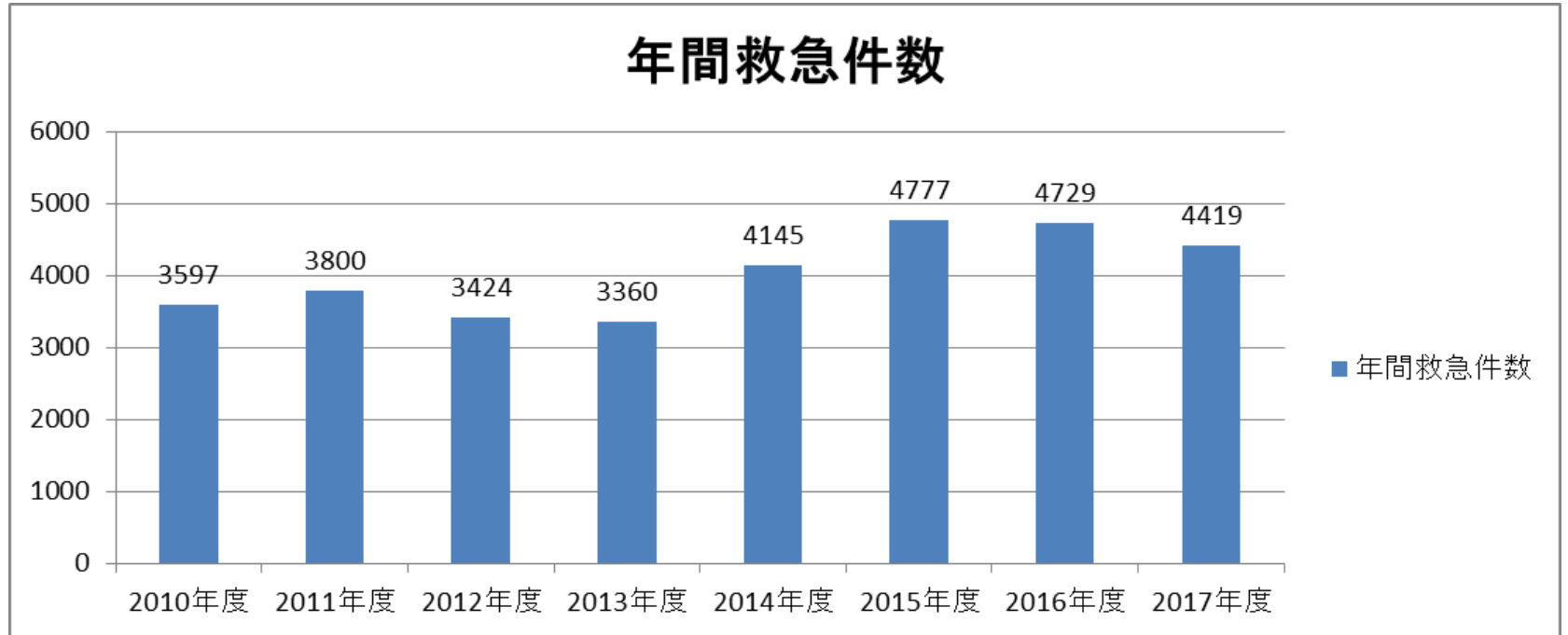
多職種によるチーム医療



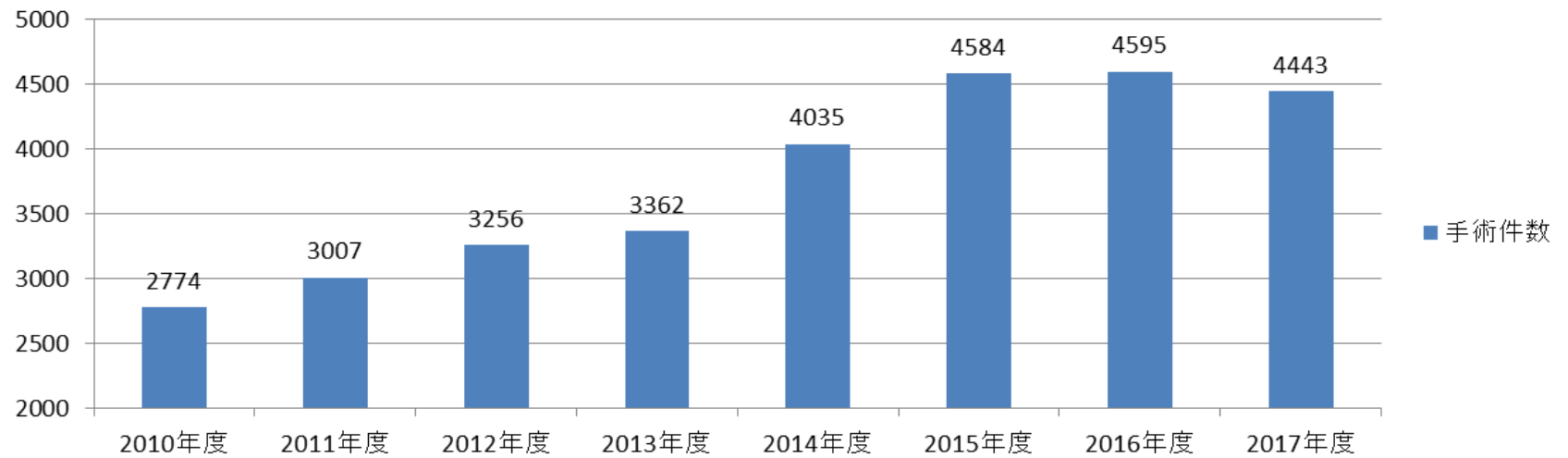
多職種によるチーム医療をスタートするにあたって

1. 医師事務作業補助者の運用を開始
2. 常勤歯科衛生士を採用し、歯科衛生士による口腔ケアを開始
さらに地域歯科医師会の歯科医による口腔ケアラウンドを開始
3. 認知症看護認定看護師と提携病院精神科医師による認知症ラウンドを開始

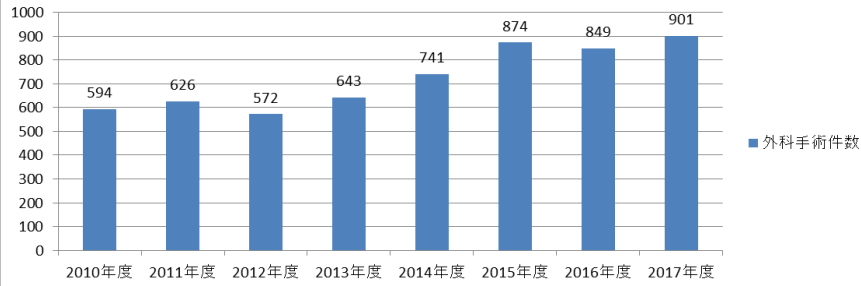
年間救急件数



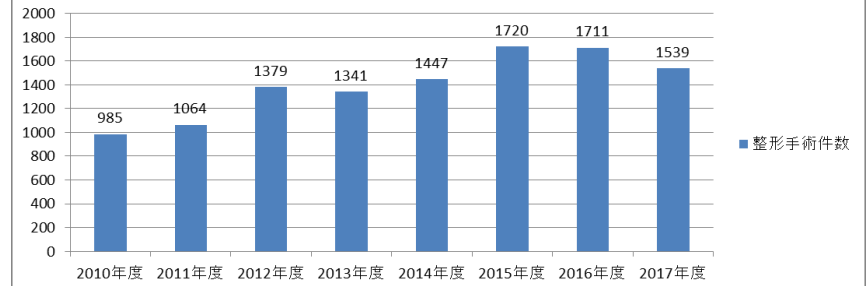
手術件数



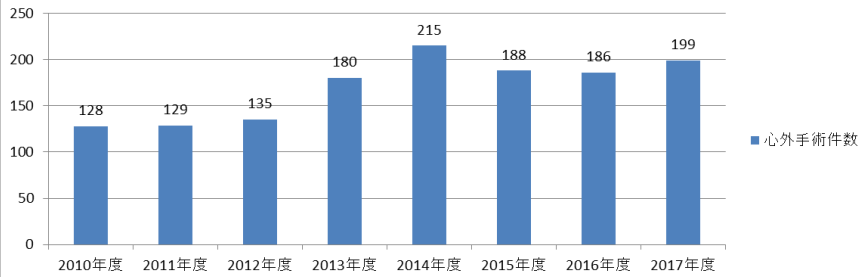
外科手術件数



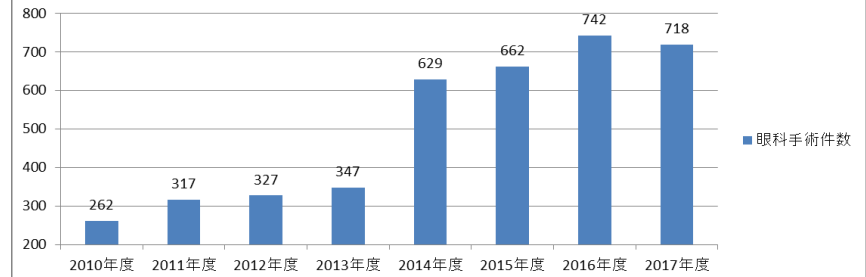
整形手術件数



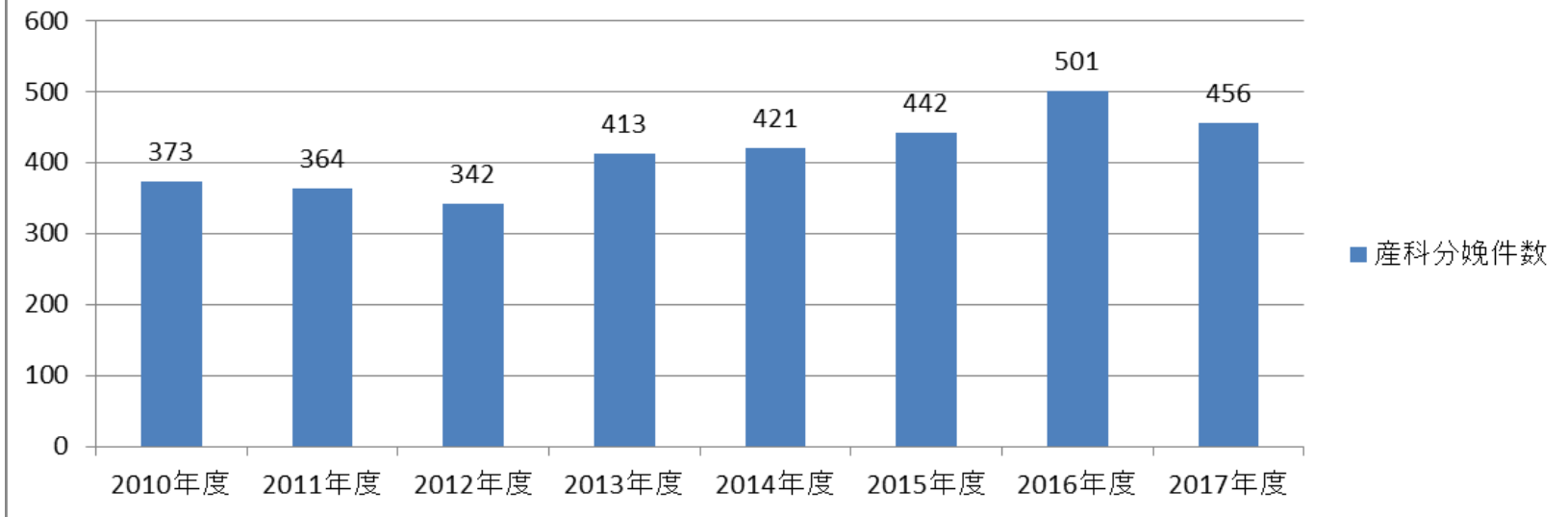
心外手術件数



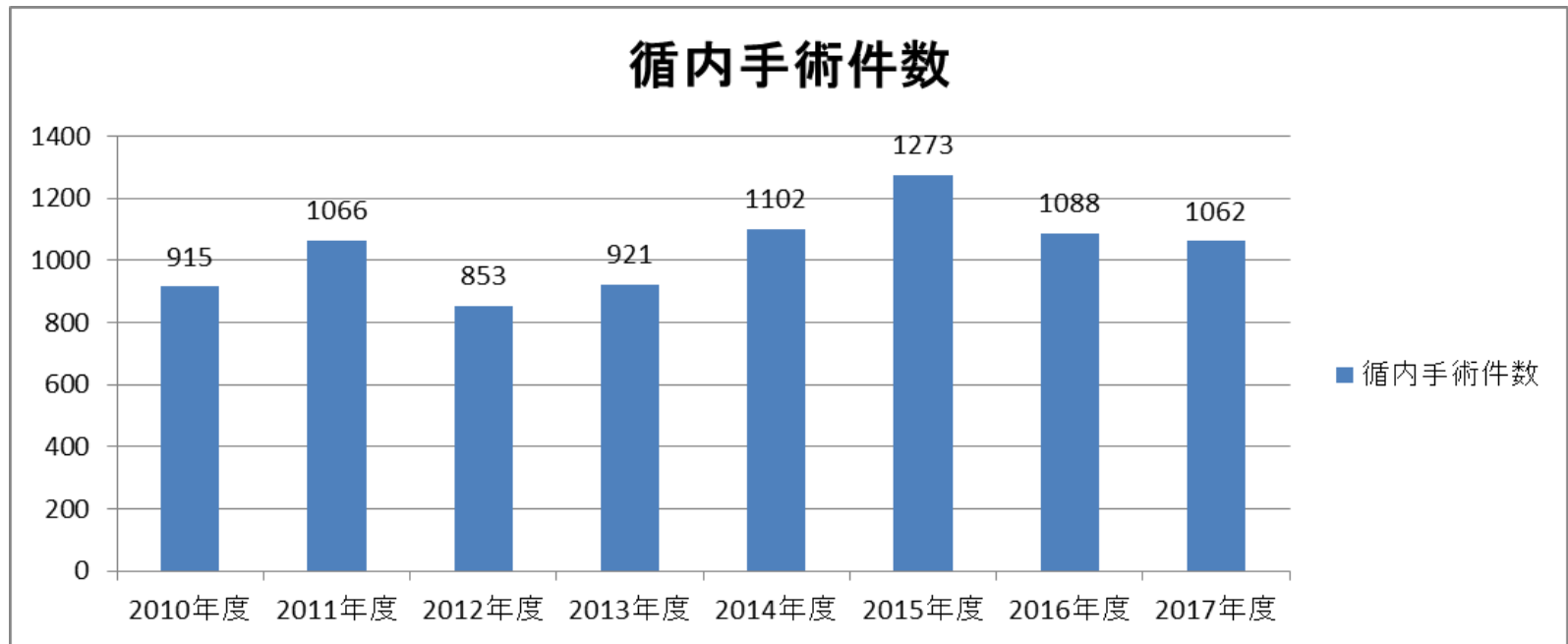
眼科手術件数



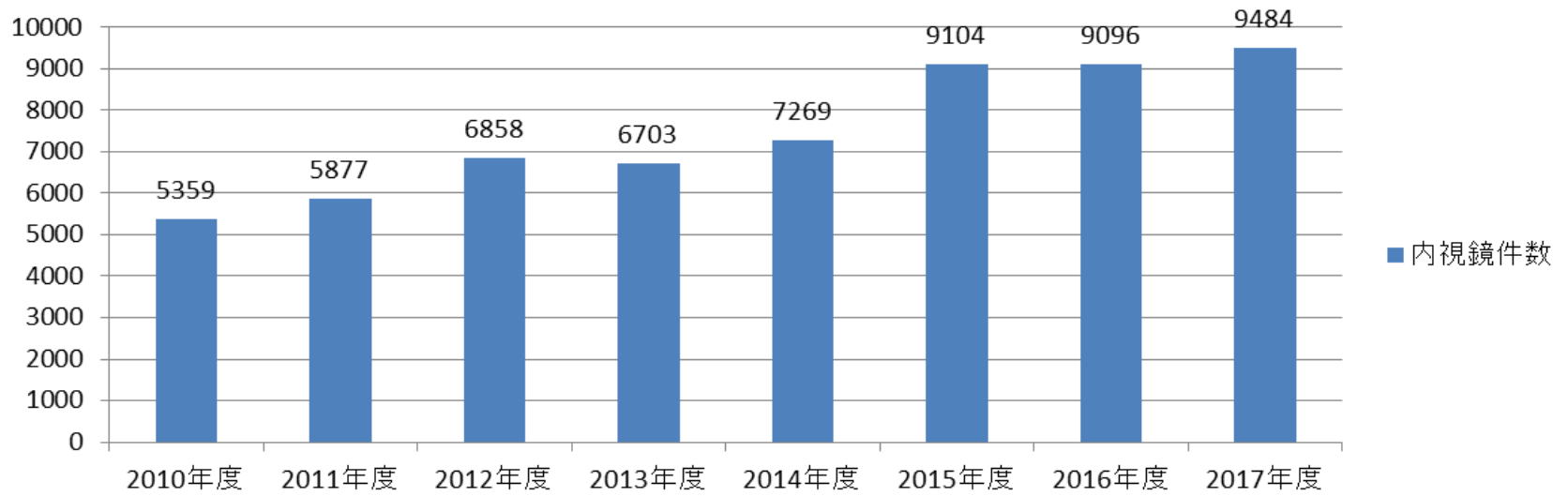
産科分娩件数



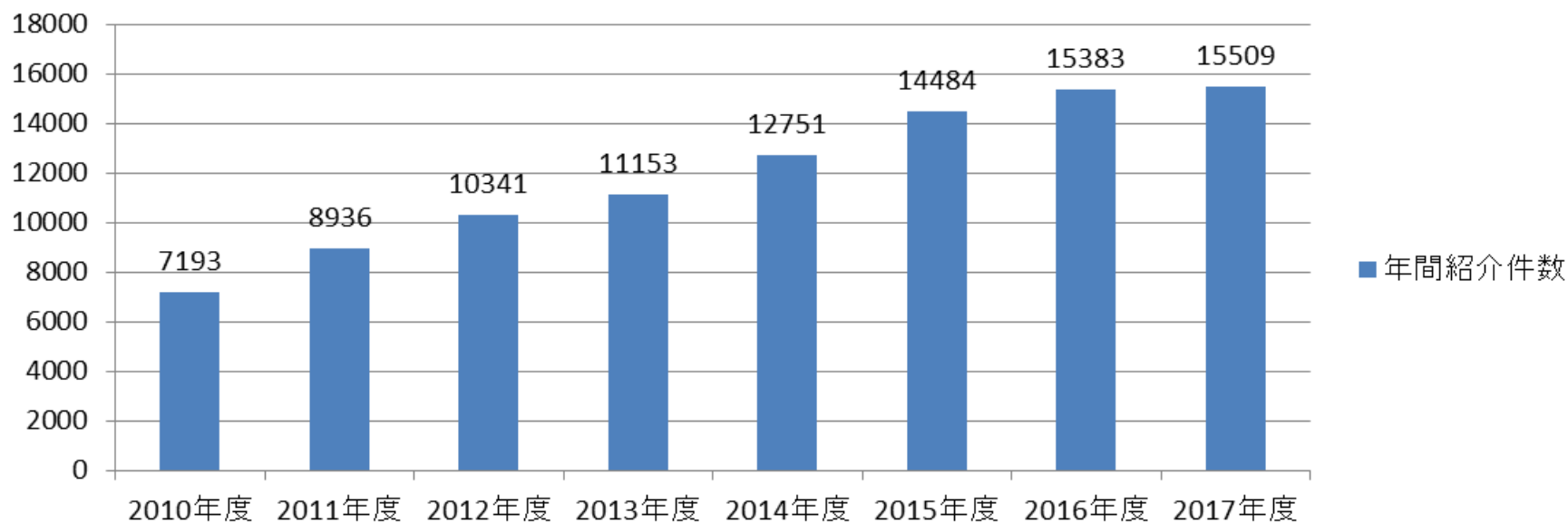
循環器内科心カテーテル検査件数



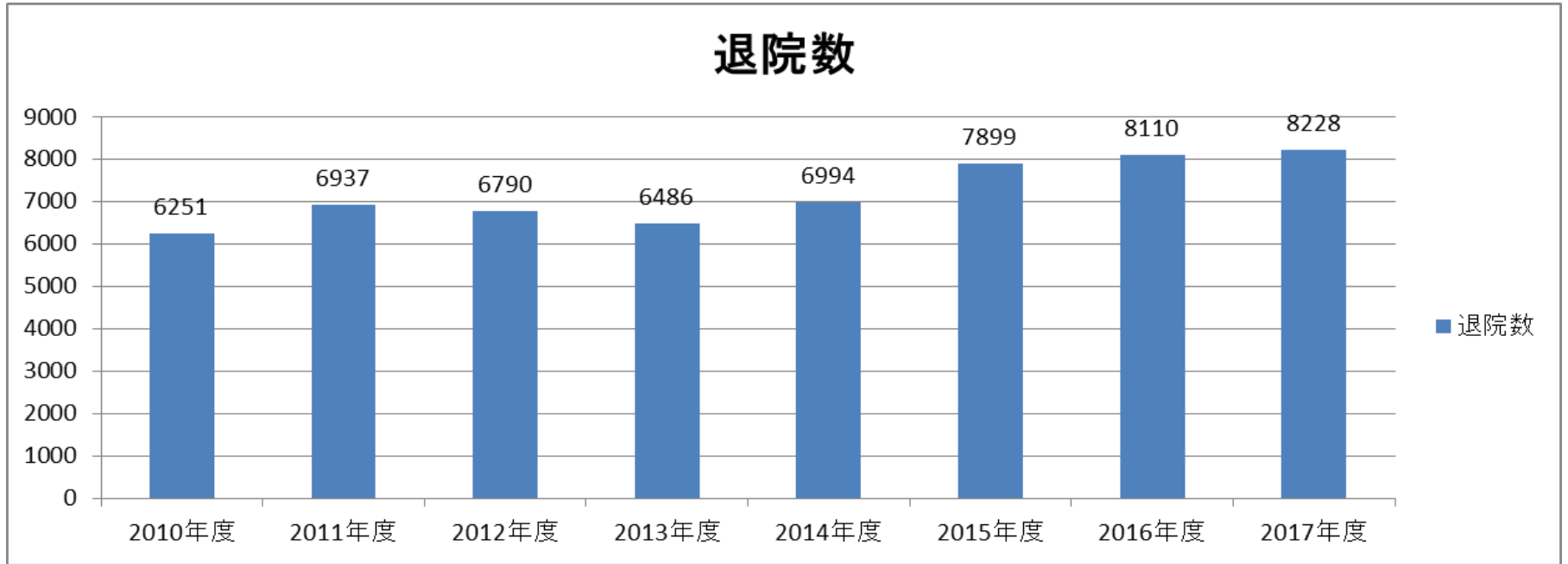
内視鏡件数



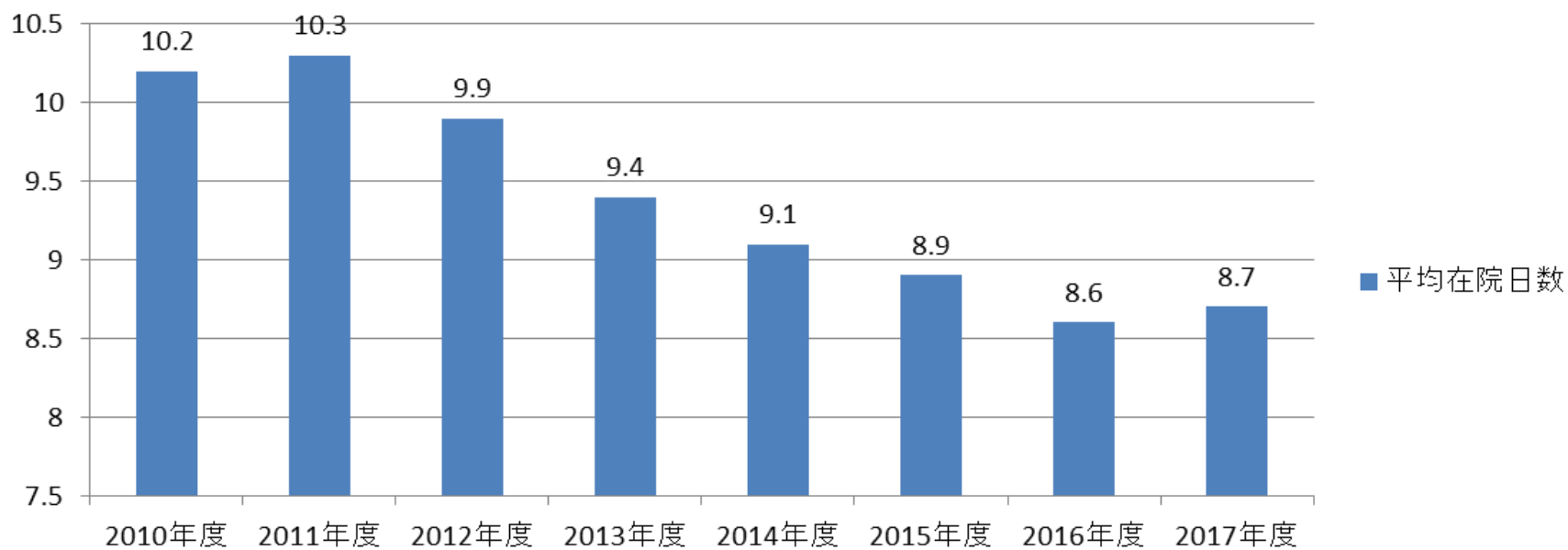
年間紹介件数



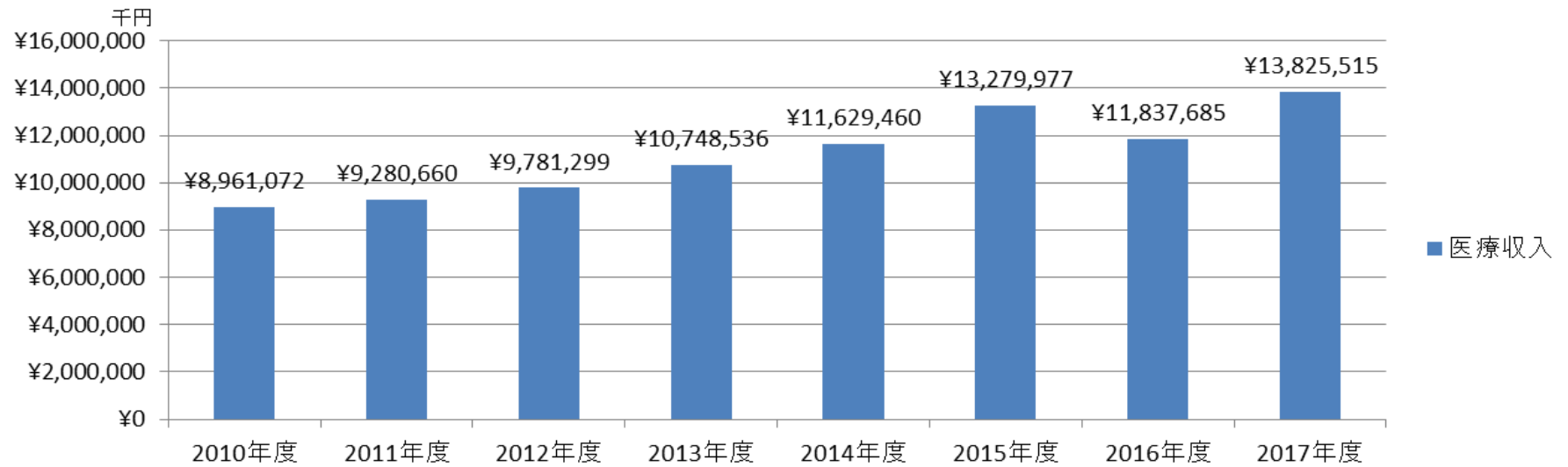
退院数



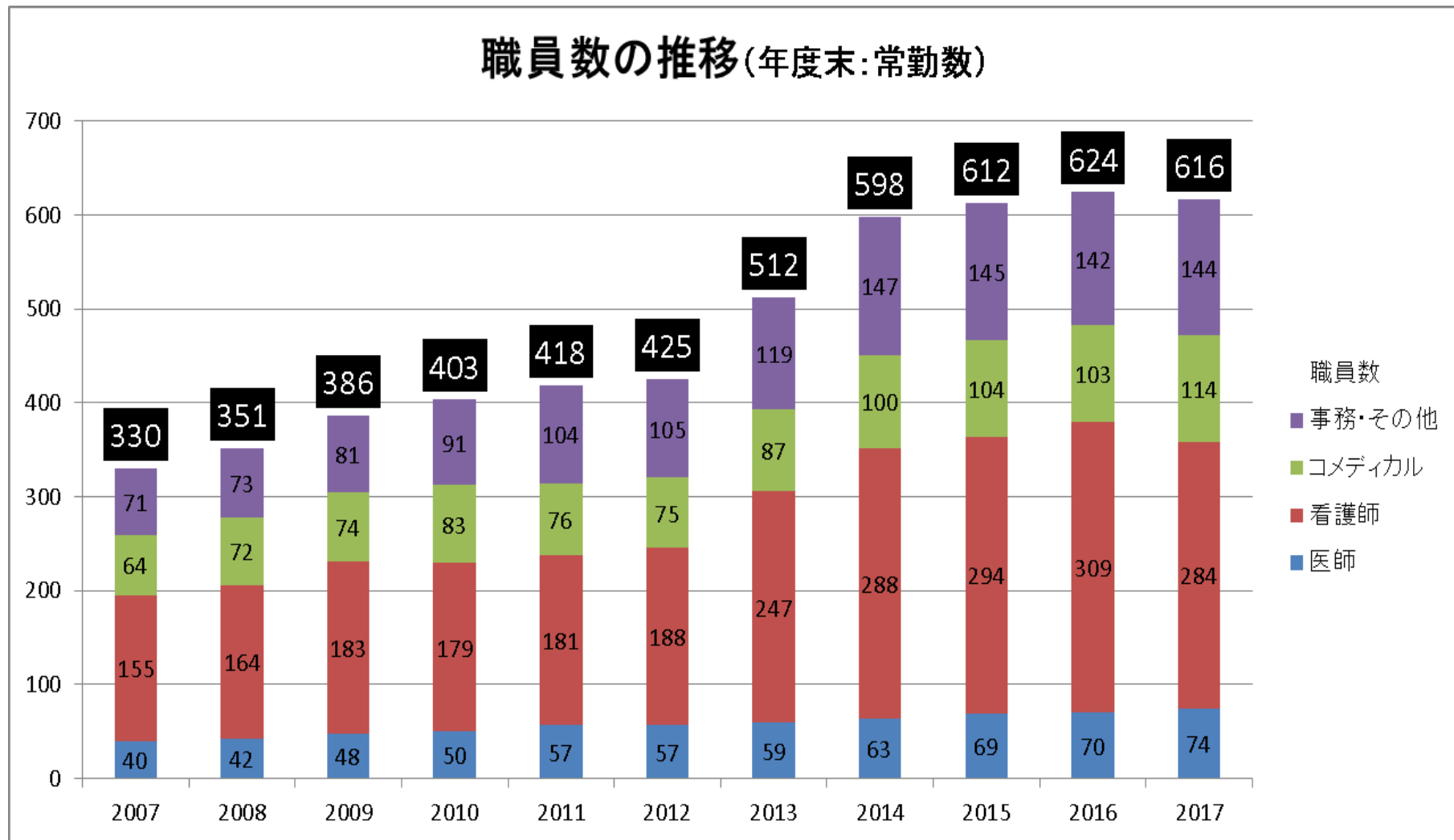
平均在院日数



医療収入



常勤職員数の推移



医師事務作業補助者の働きは病院業績向上の

起爆剤

医師事務作業補助者の価値は無限

医師事務作業補助者のちから



医師の力を最大限に発揮

みなが望むような優れた医師を招聘できる！

病院にとっての最強のスペック！

MAは医療のマネージャー

医療には、優れた医師が必要



その実力を発揮させるために優れたMAが必要

MAは医療のマネージャー

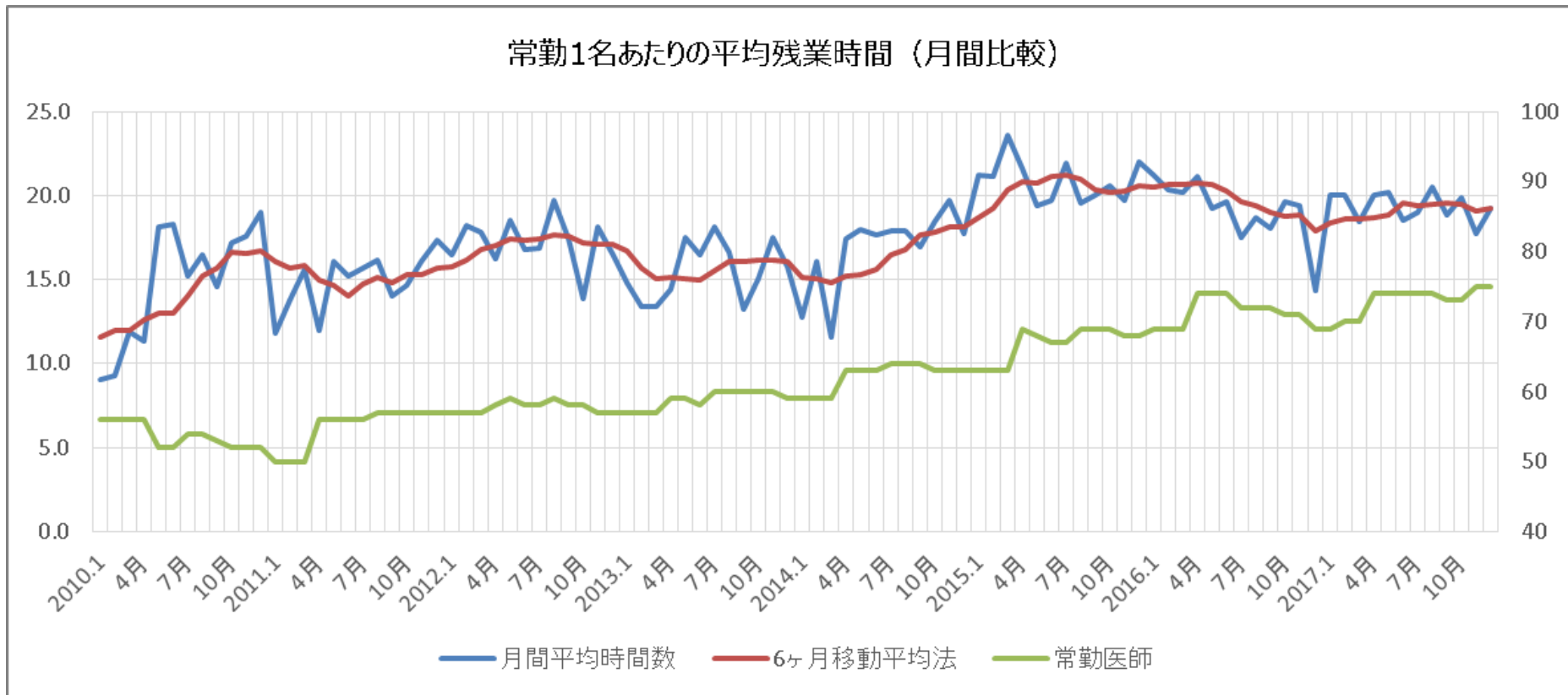
全ての医療職の潤滑剤



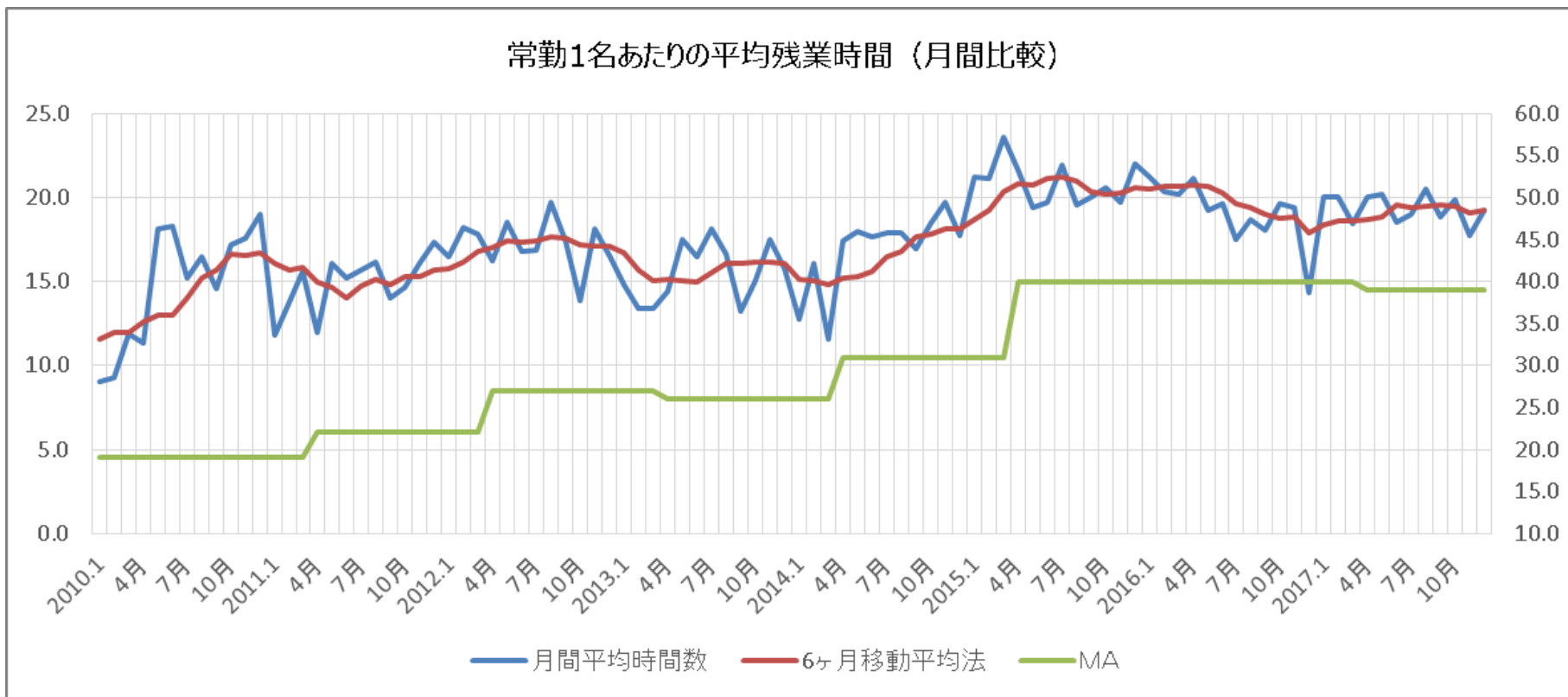
全ての医療職の実力を発揮させるために優れたMAが必要

4. 医師事務作業補助者への タスクシフティング/シェアリングを 進めるための今後の課題

常勤医師数と常勤医師平均残業時間との関係



医師事務作業補助者数と常勤医師平均残業時間との関係



今後の課題

医療勤務環境改善を本気で進めて行くためには

1. 医師事務作業補助者という新しい職種が存在や仕事の内容を広め評価を高める必要がある。
2. 今の診療報酬の体制加算では、民間や中小規模の病院が導入するには十分で無いのが現状であり、診療報酬でのさらなる評価が必要である。



医師事務作業補助者(メディカルアシスタントMA)の
笑顔はかなり

地域になくてはならない荻窪病院
を目指して・・・

ご清聴誠にありがとうございました